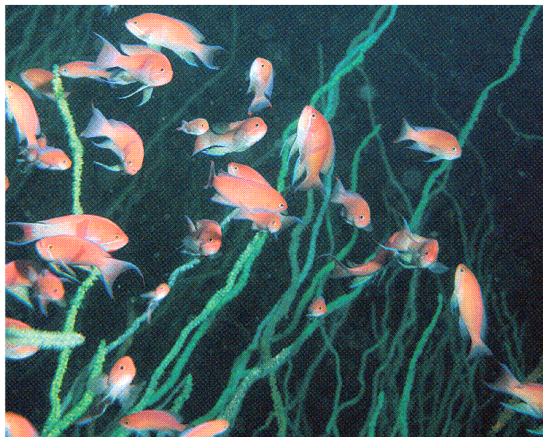




(右から反時計回りに) ムチカラマツの間を泳ぐ群れ▽繁殖期に光るアカオビハナダイの雄▽普段の雄▽アカオビハナダイの雌



アカオビハナダイ

学名 *Pseudanthias rubrizonatus*

分類 スズキ目ハタ科ナガハナダイ属
分布 伊豆大島、相模湾、駿河湾、和歌山県南部、高知県柏島、愛媛県室手・引船越、鹿児島湾、屋久島。台湾からオーストラリアの西太平洋
全長 最大7センチまで成長する
特徴 沿岸の岩礁やサンゴ礁に生息するハナダイの仲間。オーストラリアで見られる本種は水深82~135メートルの深い地点に生息する。日本各地の生息地でも比較的深い場所で観察されるが、鹿児島湾では10~20メートルの浅い場所から大きな群れを見ることができ、繁殖期は7~11月で、水中に卵と精子を放出する放卵放精を行う。

雄は光り輝き美しい

桜島の麓から海に潜ると、サンゴの仲間、ムチカラマツの林が見えてきます。その間を赤い花びらのようにひらひら泳ぐ魚がアカオビハナダイです。伊豆大島から成長とともに性転換をすることで知られます。小さなうちには雌で、桃色の体に尾びれの先が赤いだけで目立った模様はありません。成長して雄になると、尾びれと尻びれの先端が長く伸び、名前の由来でもある美しい赤い帯が現れます。この模様で性別を見分けることができます。

アカオビハナダイは7~11月に繁殖期を迎え、雄は子孫を残すため、さらに美しさを増します。赤い帯の前から背中、尾びれにかけて青白く光り、尻びれには赤いラインが浮かび上がります。まるで化粧をしているようです。雄は雌の前で美しい模様を見せながら素早く上昇、下降を繰り返して求愛します。

桜島の麓では自分の子孫を残すため、美しさに磨きかけた雄たちの舞が、雌とダイバーを魅了します。(展示課海獣展示係・柏木伸幸)

おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

うちは雌で、桃色の体に尾びれの先が赤いだけで目立った模様はありません。成長して雄になると、尾びれと尻びれの先端が長く伸び、名前の由来でもある美しい赤い帯が現れます。この模様で性別を見分けることができます。